

U.S. Indicators

発表日: 2019年9月18日(水)

米国 19年8月鉱工業生産は上振れ

～生産活動は再調整する可能性～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治 (Tel: 03-5221-5001)

鉱工業生産

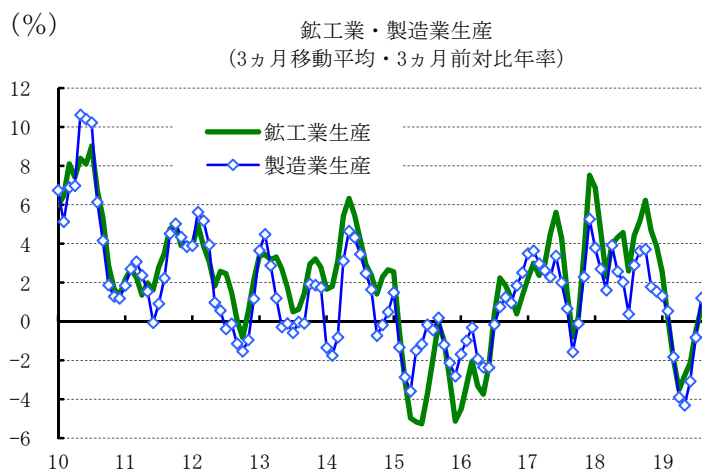
| | 鉱工業生産 | | 製造業 (NAICS) | 鉱業 | 公益 | ハイテク 関連 | 除ハイテク 関連 | 自動車関連 | 設備稼働率 | | 生産能力 |
|-------|-------|--------|----------------|------|------|------------|-------------|-------|-------|--------------|------|
| | | | | | | | | | 全産業 | 製造業 (SIC) | |
| 18/08 | +0.8 | (+5.3) | +0.4 | +2.2 | +1.3 | +1.5 | +0.4 | +2.9 | +79.3 | +77.0 | +0.2 |
| 18/09 | +0.1 | (+5.4) | +0.0 | +1.0 | ▲0.4 | ▲0.3 | +0.1 | +1.9 | +79.3 | +76.9 | +0.2 |
| 18/10 | +0.2 | (+4.1) | ▲0.1 | +0.1 | +2.6 | ▲0.6 | ▲0.1 | ▲1.9 | +79.3 | +76.8 | +0.2 |
| 18/11 | +0.5 | (+4.1) | +0.2 | +0.8 | +2.7 | ▲1.1 | +0.2 | +0.6 | +79.6 | +76.9 | +0.2 |
| 18/12 | +0.0 | (+3.8) | +0.6 | +2.2 | ▲6.8 | ▲0.1 | +0.8 | +4.0 | +79.5 | +77.3 | +0.2 |
| 19/01 | ▲0.4 | (+3.6) | ▲0.6 | ▲0.4 | +0.8 | +1.5 | ▲0.8 | ▲7.2 | +79.0 | +76.7 | +0.2 |
| 19/02 | ▲0.5 | (+2.7) | ▲0.5 | ▲1.3 | +0.6 | +0.8 | ▲0.4 | +1.6 | +78.5 | +76.3 | +0.2 |
| 19/03 | +0.1 | (+2.3) | ▲0.1 | ▲0.2 | +1.7 | +0.8 | ▲0.2 | ▲1.3 | +78.4 | +76.2 | +0.2 |
| 19/04 | ▲0.6 | (+0.7) | ▲0.9 | +2.5 | ▲3.3 | ▲1.2 | ▲0.8 | ▲1.7 | +77.8 | +75.4 | +0.2 |
| 19/05 | +0.2 | (+1.8) | +0.1 | ▲0.3 | +1.8 | ▲0.2 | +0.1 | +2.4 | +77.8 | +75.4 | +0.2 |
| 19/06 | +0.1 | (+1.1) | +0.6 | +0.5 | ▲4.1 | +0.6 | +0.7 | +3.1 | +77.8 | +75.8 | +0.2 |
| 19/07 | ▲0.1 | (+0.5) | ▲0.4 | ▲1.5 | +3.7 | +0.7 | ▲0.5 | +0.5 | +77.5 | +75.4 | +0.2 |
| 19/08 | +0.6 | (+0.4) | +0.5 | +1.4 | +0.6 | +0.8 | +0.5 | ▲1.0 | +77.9 | +75.7 | +0.2 |

(注)カッコ内は前年比

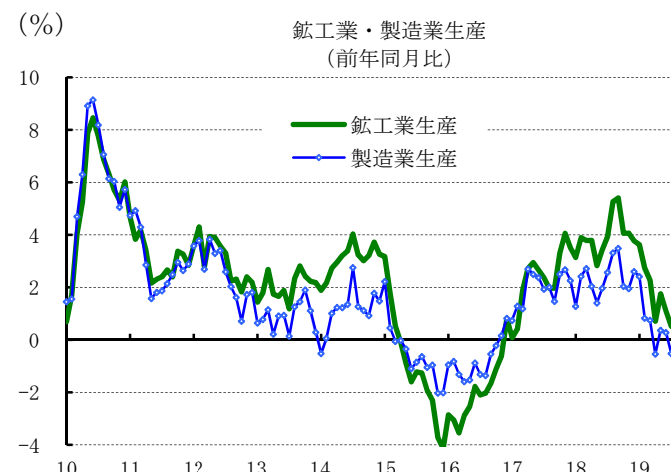
19年8月の鉱工業生産は、前月比+0.6%（7月同▲0.1%）と市場予想の同+0.2%を大幅に上回った。公益が前月比+0.6%（7月同+3.7%）と減速した一方、製造業がハイテク等の拡大により前月比+0.5%（7月同▲0.5%）と増加に転じ（3月－7月合計0.1%p下方修正）、市場予想の同+0.2%を上回ったほか、鉱業が7月にハリケーン襲来で下ぶれた反動によって前月比+1.4%（7月同▲1.5%）と増加に転じた。

8月の生産活動は、自動車関連の減少にもかかわらず、半導体などハイテク部門の堅調や、航空機・その他輸送設備の持ち直し等によって押し上げられた。3ヶ月移動平均・3ヶ月前対比年率では、鉱工業生産が+0.7%（前月▲0.5%）、製造業生産は+1.2%（前月▲0.8%）とともにプラスに転じた。ただし、前年比では、鉱工業生産が+0.4%と小幅のプラスにとどまり、製造業は▲0.4%と減少を続けている。また、先行する企業景況調査によると、生産活動は再び調整することが示唆されており、今回の持ち直しの動きは一時的と判断される。悪影響を及ぼす要因としては、ドルの高止まりや海外需要の減退、関税引き上げによる輸出の減少などのほか、米自動車メーカーのリストラ等が挙げられよう。

製造業の業種別の動向では、電気設備・部品、自動車・同部品、紙、石油・石炭、その他製造業が減少に転じたうえ、食品・飲料・タバコ、アパレルが減少を続けた。また、その他耐久財は減速した。一方、木材製品、非鉄、加工金属、一般機械、繊維、印刷・同サポート、化学、プラスチック・ゴム製品が拡大に転じたほか、一次金属、コンピューター・電子機器、航空機・その他輸送設備、家具・関連製品が加速した。



(出所) FRB

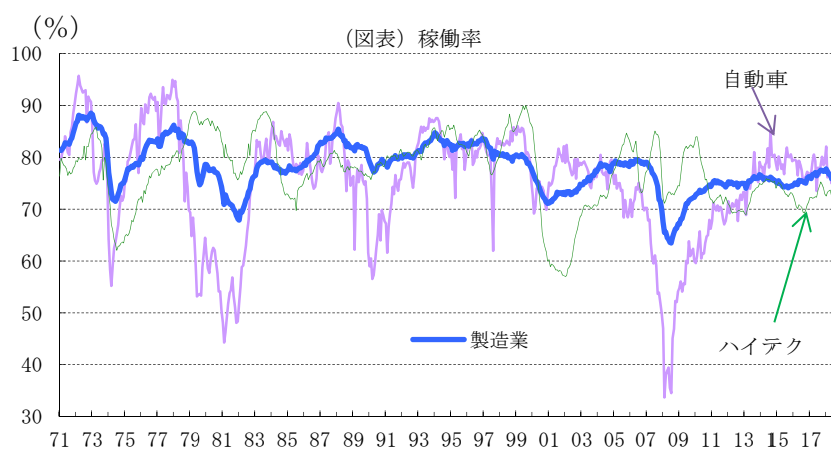


(出所) FRB

稼働率をみると、設備投資の増加による生産能力の拡大が続くなか、生産の増加を背景に鉱工業全体が77.9%（前月77.5%）と上昇し、市場予想77.6%を上回った。製造業も生産能力の拡大が続くもと、生産増加によって75.7%（前月75.4%）と小幅上昇した。

稼働率が80%を上回っている業種別は、紙パ、加工金属の2業種にとどまった。前月から低下した業種では、高い順に紙パが83.0%（前月83.6%）、石油・石炭が79.4%（前月79.6%）、自動車78.6%（前月79.5%）、その他耐久財78.4%（前月78.6%）、電気設備・部品75.6%（前月75.9%）、食品・飲料・タバコ75.4%（前月75.6%）、アパレル61.9%（前月62.5%）、その他製造業59.7%（前月59.8%）となった。

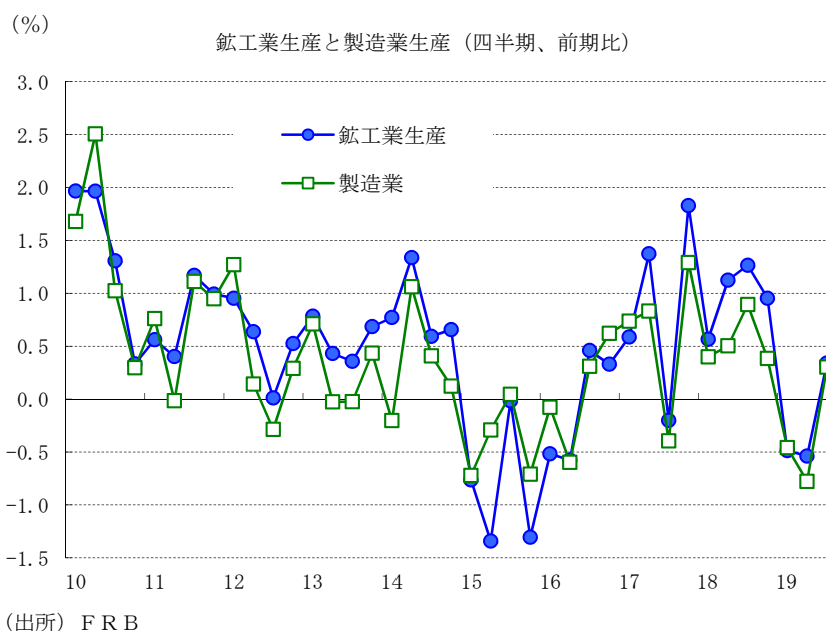
一方、前月から上昇した業種は、高い順に加工金属80.8%（前月80.1%）、一般機械77.6%（前月76.4%）、プラスチック77.4%（前月75.7%）、航空機・その他輸送設備76.4%（前月75.9%）、家具76.4%（前月76.0%）、化学76.2%（前月75.5%）、木材製品75.9%（前月75.6%）、一次金属71.3%（前月70.5%）、印刷・同サポート70.1%（前月70.0%）、非鉄67.0%（前月66.3%）と続いた。なお、コンピューター・電子機器72.3%（前月72.3%）、繊維70.0%（前月70.0%）と変わらずとなった。



(出所) FRB

四半期では、7、8月平均の鉱工業生産は、前期比年率+1.4%と4-6月の前期比年率▲2.1%から増加に転じた。内訳では、鉱業が前期比年率▲1.9%（4-6月期前期比年率+7.9%）とマイナスに転じた一方、製造業は前期比年率+1.2%（4-6月期前期比年率▲3.1%）、公益事業が前期比年率+4.1%（4-6月期前期比年率▲8.5%）とプラスに転じた。2四半期連続で大幅に減少した反動もあり、持ち直しの動きがでた。

19年の生産活動の見通しは、国内需要の拡大に支えられるものの、ドル高水準の持続や貿易戦争によるコスト増加、先行き不透明感の高まりの影響を受け、製造業生産が+0.1%（18年+2.3%）、鉱工業生産が+1.2%（同+3.9%）に鈍化すると予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。